

# 「北野神社と泉勝寺」 「街道沿いに並び立つ寺社」



赤井2丁目の街道沿いに、北野神社と泉勝寺が並んで鎮座しています。北野神社のすぐ西には、北側の低地へ下るなどかな坂があり、街道がもともと寝屋川の堤防であったことがよく分かります。

まずは、北野神社から紹介します。前回も触れたように、赤井はもともと水野村の一部でしたが、万治元年（1658）に赤井村ができた後もしばらくの間は現在の大東町に所在する水野北野神社が赤井・水野両村の鎮守でした。赤井の北野神社は、明治35年（1902）、祭神・菅原道真の千回忌を記念し、地元有志によって建てられた、市内でも比較的新しい神社です。一方、北野神社の東隣の泉勝寺の歴史は古く、戦国時代の天文8年



北野神社(左)と泉勝寺

（1539）、本願寺から「方便法身尊像」が与えられたことに始まります。当初は、浄土真宗の布教拠点である惣道場でしたが、天和3年（1683）に東本願寺から「泉勝寺」の寺号が与えられ、正式な寺院となりました。この頃に木像の「阿弥陀如来立像」が本尊となりました。かつては南向かいにある現在の赤井公民館の場所にありましたが、安政2年（1855）の大地震で本堂が倒壊した後、倒壊した材木を再利用して現在地に再建されました。

なお、現在の本堂は平成5年にできたものです。泉勝寺には、尊像・木像のほかにも、貞享2年（1685）に東本願寺から与えられた「親鸞聖人絵像」・「蓮如上人絵像」などの貴重な宝物が伝わっています。

泉勝寺のすぐ東には主要地方道八尾枚方線が南北方向に走っており、そこからさらに30メートルほど東へ行くと、多くの人でにぎわう住道駅付近に至ります。次回からは駅周辺の旧跡について紹介します。

（生涯学習課）



泉勝寺創建当時から伝わる「方便法身尊像」